

あい  
**な人** File\_24  
いちのせきを愛する人

看護師からアナウンサーへ転身

**阿部由佳さん**

Abe Yuka 25 赤荻



モットーは、いつでもスマイル  
意志曲げずチャレンジあるのみ

幼稚園の頃の夢は、看護師かアナウンサーだったという由佳さん。高校時代、進路の選択に迷い、働く場所が多いという理由で看護師を選択。今年3月までの3年間は県立病院で働いていました。

しかし、アナウンサーになりたいという思いは日に日に大きくなっていました。

25歳の夏、由佳さんに転機が訪れます。24歳の頃に首を痛め、看護師の仕事に体が耐えられないと感じていたこと。そして、新聞で一関ケーブルネットワークのアナウンサーの求人を見つけたことでした。

求人には、25歳までという年齢制限。「運命だと思いました」と当時を振り返る由佳さん。夢を追うのは今しかないと採用試験を受験。見事合格し、今年の4月から報道という新たな道を歩んでいます。

現在は、アナウンサーの見習い中。アナウンスの練習をしたり、番組の原稿を作ったりと慌ただしい毎日を過ごしています。取材では、カメラ片手に、たくさんの場所に足を運び、多くの人と出会います。「何もかもが真新しく、新鮮に感じています。何気なく見ていた番組でも、視聴者が聞き取りやすいアクセントや、間の取り方などの工夫がたくさんあります。先輩アナウンサーのレベルの高さを感じます」と真剣な表情の由佳さん。

看護師だった自分と、今の自分。変わったのは表情。「入社した当時は固い表情だったが、今は柔らかくなった」と友人にも言われるとのこと。「表情が明るくなったことで、気持ちも明るくなり、声のトーンも変わりました」と実感。

看護師時代から心がけているのは、人の話を良く聞くこと。相手の話をうまく引き出すよう、子供と話すときは同じ目線で、お年寄りには方言を交えて会話するなど、工夫を凝らしています。

「やりたいと思ったら必ずやらない」と意志を曲げない性格の由佳さん。お茶の間に自分のアナウンスが流れることを目指して、日々勉強しています。

\*市政情報課で社会体験学習を行った、高橋南々花さん(花泉中2年)が本記事の取材をしました

**Profile**

1989年一関市生まれ。地元の高校を卒業後、08年に県立磐井病院に看護師として就職。アナウンサーになる夢を実現するため昨年度で退職。本年4月から一関ケーブルネットワークに入社した。アナウンサーになるため猛勉強中。市内を取材で飛び回り、番組作りを手がけている。

**松榮堂**

地元の味で  
夏の御挨拶

御中元・お土産に  
～送料サービス実施中～  
期間:8月31日発送まで

1送付先に**税抜3,500円以上**お買い上げの場合  
送料324円(税込)で全国へお届け!  
※但し、九州・沖縄へのお届けは送料1,080円頂戴致します

本社/一関市山田前103 総本店/0191-23-5008  
TEL 0191-23-5009(代) 千蔵店/0191-51-1555  
<http://www.shoeidoh.co.jp>



特集

災害に備える

大切な人を守るため

一関は、今まで想定を上回る自然の猛威と闘ってきた。昭和23年9月のアイオン台風。22年9月のカスリン台風。平成14年7月の台風6号。20年6月の岩手・宮城内陸地震。23年3月の東日本大震災。昨年7月の集中豪雨。私たちは、これからも新たな猛威と闘い続けなくてはなりません。災害の記憶は風化しやすく、防災意識の風化は地域の防災力を弱めます。7月11日に来襲した台風8号の被害は最小限でした。しかし、災害は忘れたころにやってきます。私たちがすべきことは何か。もう一度思い出してみましよう。